

---

# 散りゆく僕らの夢物語

白薔 黒澄

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

散りゆく僕らの夢物語

### 【Nコード】

N1235H

### 【作者名】

白薔 黒澄

### 【あらすじ】

殺人人形として育て上げられた僕たち。夢を見ることは叶わない。

**(前書き)**

残酷な描写がありますのでご注意ください。

窓一つ無い暗い廊下を、何でも無いかのように僕と弟は歩く。

床や壁には僕たちが殺した人だった奴らの血が、肉片が、内臓が、絵を描いたかのように散らばりこびりついていた。

窓一つない廊下に光はない。そのせいで、時折人だったものの骨や肉片、さらには内臓までを踏んでしまう。結果、そこには何とも言えない嫌な音が響くわけで。

その他にある音といえば、僕たち二人分の無機質な靴音と、まだ血の滴る日本刀の擦れる音だけで……。

僕たちが履いて来た靴や服、さらには黒い髪にまで、大量の返り血がこびりついている。

乾いた血もあれば、まだ暖かく滴る乾ききっていない血と、様々なカタチをした血がまとわりついていた。

服は大量の返り血を吸い、重く肌に張り付いている。

僕たちがあまりにも大量の血や肉片をまき散らしたせいで、この窓一つない暗い廊下には、独特なむせ返るような匂いが充満していたが、全く気にはならなかった。

「嗅覚」

人間として、生き物として必要なもの。それが僕たちにはない。

人殺しの道具、いや、人形として僕たち兄弟は育てられた。

人形に人らしさは要らないという大人たちの自分勝手な理由が、僕たちに人として必要不可欠な感情や五感などといったものを奪った。さらには、実験とは名ばかりの改造。

それにより、先ほどの感情や五感の他に、痛みや空腹、さらには睡眠を取る事や疲れを感じる事もなくなった。

僕たちにまだあるものといえば自我だけで。もっとも、その自分を表す最後の自我でさえ、もうすぐあの大人たちに奪われてしまうのだから……。

その大人たちを憎いとは思わない。

もう、そんな感情でさえ

ナ・イ・ノ・ダ・カ・ラ……

廊下の闇の先にうつすらと光が見えた。腕にしていた時計がしめす時刻は二十三時四十三分。もう夜中といえる時刻だった。

廊下を出ると、残酷なまでの優しい月明りが、僕たち兄弟を包んだ。空を見上げる。恐いほどの満月だった。

僕の口は、無意識のうちに言葉を紡いでいた。

「きれい……。」

その声に感情が含まれているわけなんてないけれど。

僕は先を歩く弟を気にすることもなく、ただただ、その月を見つめていた。

散りゆく僕らの夢物語

(夢なんて、見られないさ) (僕らは忘れたんだから) (美しい夢の見方なんて)

僕らに夢のような物語は、訪れはしない

あるのは、月という夢だけ……。

.

(後書き)

「散りゆく僕らの夢物語」はいかがでしたか？突発的に書いたので、訳が分からない所が多々あると思いますが、そこは大目に見てやって下さい。ちなみに、出て来た二人に名前や年齢設定はございませんが、私の中では兄・16歳、弟・12歳とっております。では、ここまで読んで下さりありがとうございます！！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1235h/>

---

散りゆく僕らの夢物語

2010年10月27日14時03分発行